



北海道猟友会土別支部和寒部会
 (会長 二口 哲也さん) が実施した、
 春の有害鳥獣一斉駆除に同行し、取
 材させていただきました。

【3月20日取材】



猟友会の発足と現在の
 会員数は？

発足は昭和55年頃で、
 会員数はピーク時には15
 人いましたが現在7人と
 減少しています。

猟友会の役割は？

分かりやすく言えば、
 エゾシカによる農作物の
 被害や、山から下りてく
 るクマなど野生動物たち
 の危機から地域を守るこ
 とです。

年間の捕獲頭数は？

令和7年度は約300
 頭のエゾシカを駆除しま
 した。

例年250〜300頭
 程度は駆除しています。

活動の苦労は？

駆除活動は、日の出か
 ら日の入りまでと決まっ
 ています。

日中は、それぞれ勤務
 や仕事を持っていますの
 で、活動は出勤前の早朝
 3時半頃と、夕方5時頃



からとなり時間との闘い
 もあって大変です。

会員の確保も課題とな
 っているので、興味のある
 方は是非猟友会に問い
 合わせ下さい。

(役場 産業振興課へ)

一斉駆除の成果は？

今回は福原地区でエゾ

シカ7頭を駆除しました。

シカは通常群れで行動
 していて、多いときには
 10頭を超える群れに遭遇
 することもあります。

エゾシカは年に1頭出
 産し、4年程度で生息数
 が2倍になると言われて
 いるので、今後も駆除の
 継続が重要となります。

有害鳥獣の処理

駆除した鳥獣は東和の
 処理施設に運び、ハンタ
 ーが1頭ずつ番号を付け
 て計量を行い、施設担当
 者により焼却します。



取材を通して

今回活動に密着させて
 いただき、有害鳥獣駆除
 の苦労を実感しました。
 本業を持ちながら、早朝
 や休日返上で駆除活動に
 励んでいただいています。
 ご苦労に対し感謝はも
 ちろんのこと、活動に必
 要な予算確保や会員増加
 につながる働きかけを強
 化していきたいです。

広報委員の一言

今では、世界で唯一開催さ
 れ帯広の地域産業でもある、
 ばんえい競馬は速さではなく
 力と粘り、そして心の強さが
 試される競技です。

重いソリを引きながら何度
 も立ち止まり、それでも再び
 一步を踏み出し坂に挑む馬た
 ち。そのひたむきな姿は、ど
 んな困難にも諦めず向き合う
 尊さを静かに教えてくれます。
 今年は午年。人とともに歩
 んできた馬のように、私たち
 も思うように進めない時こそ
 歩みを止めず一歩一歩を大切
 に前へ進む大切さを忘れずに
 いたいものです。
 (優太)

議会傍聴のご案内

定例会の予定

6月16日・17日

みなさまのお越しをお待ちしています

3月定例会の傍聴者

16名

